

# 情報論 2009

- ◆ 全15回
- ◆ 1 回目 1
- ◆ 2,3 回目 情報の概念
- ◆ 4,5,6 回目 人の行為と情報
- ◆ 7,8 回目 情報の基本的性質
- ◆ 9,10,11 回目 情報の活用
- ◆ 12,13,14 回目 情報社会と情報の価値
- ◆ 15 回目 まとめ

# 評価

- ◆ 成績は学期末の定期試験で行う。  
持込不可
- ◆ 1/3以上欠席したものは評価しない。
  - 学則第31条
  - 出席をとります
- ◆ 資料はWeb上にアップする。

# 講義の到達目標


- 1-3回 30%
  - 情報という言葉の意味と概念を理解できること
- 4-8回 30%
  - 情報利活用のため人の行為と情報の関係を理解し情報の基本的な性質を理解できること
- 9-14回 40%
  - 情報の価値や情報を取りまく問題点を理解し、情報を活用するための概念を理解できること

# 1. 言葉としての情報

- ◆ 情報の原語
- ◆ 英語のインフォメーション(Information)が語源
- ◆ Informationの語源はラテン語のインフォーマーレ(Infomare)
  - 「形の定かでないものや形になる以前の状態のものに形を与える」ことを意味する
  - 日本科学技術情報センター、1995
- ◆ 情報とは、知識や認識そのものをいうのではなく、それに形を与える材料や素材を意味する

# 情報という言葉の誕生 (第二次世界大戦以前)

- ◆ 1862 information
  - 英和対訳袖珍辞書 (シュウチン:ポケット新辞典)
  - 教工、告知、手術、了解、訴ル事
- ◆ 1873(明6) information
  - 附音挿図英和字彙
  - 消息、教諭、報告、訴訟、知識
- ◆ 1876(明9) 情報 キテン
  - 仏国歩兵陣中要務実地演習軌典 (酒井忠恕)
  - renseignement (フランス語の情報) を情報 [小野厚夫 1991](#)
  - 敵状、敵情の報知、報告、状報が情報に統一

- 
- ◆ 1879(明12)
    - 民情一新(福沢諭吉)
    - インフォルメーション
  - ◆ 1894(明27)
    - 日清戦争の新聞記事
  - ◆ 1901(明34)
    - 大戦原理(戦争論(森鷗外))
    - nachricht(通知、報告)を情報
  - ◆ 1904(明37)
    - 日露戦争の新聞記事
  - ◆ 1916(大4)
    - 熟語本位英和中辞典
    - intelligenceを情報
  - ◆ 1921(大10)
    - 大英和辞典, informationを情報



# 「通知」から「諜報」へ

- ◆ 情報は、戦争の時代を背景に参謀本部情報課，内閣情報局など、軍事用語として使われた
- ◆ 情報という言葉は、戦争や諜報に関連する言葉として使用されてきた
  - ちょうほう: 敵の情勢などをひそかに探って知らせること、intelligence

# 「諜報」から現在の「情報」へ

- ◆ 第二次大戦終了まで情報は諜報の意味を持つ
  - 情報から受けるイメージは良くなかった
- ◆ 情報理論Information Theory, shannon, (1948)の紹介で情報を使用 関英男,1954
  - 現在の情報という言葉の始まり

# 民主主義社会と情報

- ◆ 1930年代
  - 全体主義、専制国家
  - 政府、一部の人が情報を独占(ナチス、ソ連、日)
  - 世論操作、市民を知らない状態にする
- ◆ 1941.8.14
  - 大西洋憲章(大西洋会議)
    - ルーズベルト(米)、チャーチル(英) 民主主義陣営
  - Free from fear and want 恐怖と欠乏からの自由(8項の6番)
    - 第6に、ナチ暴政の最終的破壊の後、両者は、すべての国民に対して、各自の国境内において安全に居住することを可能とし、かつ、すべての国のすべての人類が恐怖及び欠乏から解放されて、その生命を全うすることを保証するような平和が確立されることを希望する。
    - <http://www.cc.matsuyama-u.ac.jp/~tamura/eibeikyoudousenngenn.htm>

# 4つの自由

- ◆ ルーズベルト 1941.1.6
  - アメリカ連邦会議 年頭教書
- ◆ 民主主義陣営の原則
  - ①言論と表現の自由
  - ②信仰の自由
  - ③欠乏からの自由
  - ④恐怖からの自由

# 「表現の自由」

## 「Freedom of expression」

- ◆ 「言論・出版の自由」
  - 「Freedom of Speech or of the Press」
  - 意見を表現する権利 (最初に考えられた表現の自由)
- ◆ 「報道の自由」
  - 「Freedom of Press」
  - 事実を表現する権利
- ◆ 「情報の自由」
  - 「Freedom of information」
  - 情報を受け取る権利 (知る権利)
    - 情報収集権、情報伝達 (提供) 権、情報受領権
  - 情報の開示をもとめる権利 (情報公開請求権)

# 冷戦の始まり

- ◆ 1945
  - 情報は冷戦の戦略の手段、諜報となる
- ◆ 1949
  - 情報理論の紹介(関英男)
- ◆ 1950年代
  - 情報が世界、市民をつなぐという理想と異なる
  - 米ソ宇宙開発戦争
    - 軍事的に重要: 偵察衛星による情報収集
    - 技術の総合力が求められる: 通信技術、コンピュータ技術など
    - 科学技術情報の増加データベースの発展

# 軍事技術の社会への還元 情報通信技術

- ◆ 1945 テレビ
  - ◆ 1952 テープレコーダ
  - ◆ 1953 マイクロフィルム
  - ◆ 1959 テレックス
  - ◆ 1959 ファクシミリ
  - ◆ 1967 コンピュータ
  - ◆ 1968 ゼロックス複写機
  - ◆ 1972 マイクロフィッシュ
- ◆ 国際電話
  - ◆ (飛行機)

# 情報の自由法

- ◆ 米の情報公開制度
  - アメリカ情報の自由法 : Freedom of information act
  - 1966年
  - 政府の情報は一般市民がshearすべきもの、しうるもの
- ◆ 日本の情報公開制度
  - 1999年
  - 行政機関の保有する情報の公開に関する法律

# 改正情報の自由法

- ◆ Freedom of Information Act (FOIA) as amended in 1996
  - 電子情報の公開
  - Electronic Freedom of Information Act
- ◆ Web上で殆どの情報を公開
  - 公文書の一般公開
    - 自治体及びその出先機関(公務員が構成員になっていたり、税金による補助金が歳入を構成している法人を含む)により作成・受領・保管されている全ての行政記録
  - 会議の公開
    - 地方自治体及びその出先機関(非営利団体で歳入の3分の1以上が税金からの収入によるものを含む)の会議とその議事録

# 情報記事件数とキーワード

- ◆ 情報は第二次世界大戦後の概念
- ◆ 1940-70年代
  - 軍事技術の社会への還元
  - 情報関連機器・通信
- ◆ 1980-1990年代
  - 情報社会の進展
  - コンピュータ・インターネット
- ◆ 2000-
  - 情報の国/企業から個人の利用へ

# まとめ

- ◆ 情報は軍事（戦争）と密接な関係を持っていた
  - 諜報を含む
- ◆ 情報の自由は民主主義社会の重要な要素
  - 表現の自由・情報の自由
  - 情報の自由法・改正情報の自由法
- ◆ 軍事技術が情報通信技術を発展させた
- ◆ コンピュータ、マスコミにより情報が認知され、インターネットにより身近な存在となった
- ◆ 情報は新しい言葉

# 問題

1. Informationの語源であるInfomareは、「\_\_の定かでないものや\_\_になる以前の状態のものに\_\_を与える」ことを意味する  
1. 意味 2. 知識 3. 認識 4. 形 5. 概念
2. 日本語に情報という言葉が登場した時期を選択しなさい。  
1. 江戸末期 2. 明治初期 3. 明治中期 4. 昭和初期 5. 大戦後
3. 4つの自由に該当しないものを選択しなさい。  
1. 言論と表現の自由 2. 信仰の自 3. 欠乏からの自由  
4. 恐怖からの自由 5. 政治体制選択の自由
4. 表現の自由に該当しないものを選択しなさい。  
1. 言論の自由 2. 出版の自由 3. 報道の自由 4. 情報の自由  
5. 通信の自由
5. 情報という言葉が社会に認知されるために最も大きな役割を果たしたものを選択しなさい。  
1. テレビ 2. コンピュータ 3. インターネット 4. 飛行機 5. 複写機